

2011年6月1日

党首討論 速報

樽床委員長 自由民主党総裁谷垣禎一君

谷垣総裁 総理、あなたと党首討論をするのはこれが二度目だと思います。が、今日私が総理に申し上げたいことはただひとつ。おやめになったらいかがですか。ということでもあります。でなぜ、こういうことを申しあげるのか。昔から、「信なくば立たず」ということを申します。古い言葉ですが、これは永遠の真理だと私は思います。今日本は大変危機にあります。今一番必要なことは国民の心をひとつにしてこの危難に立ち向かうということではないかと思いますが、そのためには信、信頼。このことが何よりも大事だと思います。あなたに辞めろと申し上げるのは、あなたは四つの方面から不信感を持たれている。このことを申しあげなければならない。

まず第一に、国内から見てみますと菅内閣の支持率より不支持率が倍ぐらいの傾向はずっと続いているが、何よりも大事なことは、菅さん、あなたになられてから、菅さんのもとで選挙はほとんど勝っておられませんね。そして重要な選挙でも候補者を立てられない。こういうことがありました。これはやっぱり国民の心が貴方から離れている何よりの証拠だと私は思います。それから、国民の目から見てもたとえばメドベージェフは北方領土へ行かれた。あるいは韓国の国会議員も北方領土へ行った。尖閣諸島の問題もあった。このときにあなたはわが国の主権を守るために戦う姿勢があるのか。これも多くの国民が不審に思ったところでもあります。それから、沖縄の普天間問題をどう解決するかというのはこのところずっと重要な政治課題でありました。あなたは総理になられてこの問題解決のために沖縄に一度も行っておられませんね。沖縄の方の信頼も失っていると思います。じゃあ次に海外から見たときにどうか。日本の最大の同盟国はアメリカであります。今回のこの大震災でもアメリカは同盟国として「友達作戦」を展開して随分日本を助けてくれました。本当にありがたかったと思います。仙台の空港も空挺部隊を直ちに投入してあっという間に処理をした。あるいは原発の問題でも冷却水をどうするか、まああなたが断られて不信を買ったという説もあるけれども、そういうこともある。それから、その最大の同盟国であるアメリカですよ。これ、あなた、日米会談 9月でいいということになっている。なぜそう先延ばしになったのか。これはあなたでは普天間問題を解決できない。それから、いつまで政権にいるかもわからない。アメリカがこう考えたのだと私は思いますよ。それから、もっと目を広げてみましても、いま日本に対して、日本人はけなげだと、あれだけの大震災に毅然として立ち向かっている。悲しみを抑えて立ち向かっている。なんとか助けなければならない。こういう声が満ち溢れているのは私は本当にありがたいことだと思います。しかし、他方この原発問題。これきちっと処理することが日本の信頼を回復する所以だと思いますが、どうも政府のやっていることは少しおかしいんじゃないかと、事実

を隠ぺいしているんじゃないかと、こういう声が起こりつつある。これはやっぱりあなたの行動が起因しているんですね。それからもうひとつ。これは国債マーケット、日本の国債の格付けを下げようということがあろうと思いますが、これはあなたの能力というものに疑いの目を持っているということだと思います。それから、あなたは行政機構のトップでもあります。しかしあなたの政治主導という手法は行政機構の面々のあなたへの信頼を結ぶことにはなっていない。あなたが法をきちっと踏まえないで権限と責任のシステムをぐちゃぐちゃにしてしまった。そして結局、あなたが不機嫌に怒鳴りつけ、しかりつけ、責任を押し付けるもんだから、官僚機構はあなたを信頼しない。こういうことになっている。そして閣内も本当にあなたの信頼があるんでしょうか。たとえば海江田大臣、そこにおられるが、この間サミットに行かれて、太陽光パネル1千万戸。これ全然海江田さん知らなくて、これは苦しまれたと思いますよ。こういったことが閣内でも不信感を広げていると思います。それから、与党野党見ますとですね、一番の問題はあなたの足下、党が、民主党の中があなたに信頼をしていない。こういう現象が起こっているじゃありませんか。あなたの足下は液状化していると、こういうふうに申し上げざるを得ない。参議院の西岡議長はあなたの党のご出身です。しかし、あなたに辞めろとおっしゃっている。これにはいろんな意見があるでしょう。しかし、西岡さんのおっしゃっていることは私はほとんど同感であります。私ども野党にしましてもいろんな形で協力しないかとかですね、あるいは唐突な連立のお誘いもあった。しかしそれは大変ご都合主義である。私どもも信頼をしておりません。こういうふうに4つの方面から信頼を失われては、これは復旧復興をあなたのもとでやっていくのは不可能だと思います。だから、おやめになるべきだと申し上げております。いかがですか。

樽床委員長          内閣総理大臣菅直人君

菅総理                  今日には震災後初めての党首討論で、国民の皆さんにも是非私と谷垣総裁のこの討論をお聞きいただきたいと思って、良い機会を与えていただいたと思っております。まず、谷垣総理に、いや失礼、谷垣総裁に、いま谷垣さんからもお話がありましたけれども、国民の皆さんはいま、私たち政治家、特にこの国会に対して一番何を求めておられるとお思いでしょうか。私は、いまほとんどの国民の皆さんはこの大震災に当たって国会が一丸となって、とにかく復旧・復興に当たってほしい。そして原子力事故に対してその終息を図ってほしい。そのことを私は国民の大部分の皆さんは強く求められていると思うんです。私は3月11日の大震災発生以来、不十分であるところはたくさんあると思いますが、私の内閣、それはすべての官僚、あるいは自衛隊員の皆さんも含めて、ほんとに真剣にこの復旧・復興に取り組み、そしてこの原発事故の終息に向けて取り組んでいるわけです。そういう中で私も何度か谷垣総裁にできればお二人でお会いしてお話ができないかということをお願いしました。しかし残念ながらそれをお受けはいただけませんで

した。私はやはり今国民の皆さんにこたえなければいけないのは、与野党を超えてどうやればこの震災を復興の軌道に乗せていけるのか、そして原発事故を収束に向かってきちんと位置付けることができるのか。そのことだと私は確信しその責任を果たしていかなければならない。このように考えております。

そこで私の方からも谷垣総裁にお聞きをいたしたいと思います。私は原発事故に関連して浜岡の原子力発電所の停止を要請をいたしました。幸にして中電がそのことを受けとめていただきました。しかし、その後大変私に対してですね、いまの原子力行政に携わっておられた関係の人たちから、警戒心が大変強まっていることを私自身非常に実感をいたしております。そういう中で、しかし私はそうではないと、けして原子力を否定するものではなくて、これまで原子力と化石エネルギーに二つの柱で物事を進めてきたことに対して、もう二つ、つまりは再生可能な自然エネルギーとそれから省エネルギーという二つの柱を加えてそれで進めていこう。そのことこそ、日本のこれからのエネルギー政策にとっても重要でありますし、地球環境にとっても重要だと、はたしてこれまでの原子力行政の中心にあった自民党の谷垣総裁としてもそういう道をとられるおつもりがあるのか、それとも従来通りの原子力中心の政策で行かれるおつもりなのか、多分国民の多くはそのことをお聞きしたいと思っておりますので、是非谷垣総裁としてのお考えを国民の皆さんにはっきりお伝えいただきたいとこのように思います。

樽床委員長          谷垣自民党総裁。

谷垣総裁          最初のね、総理ね、今必要なことは何かというお問い合わせは私は大部分あなたに同感です。そして、要するに政治空白を作るなど、いま一緒になってやる必要があるとおっしゃったのだらうと思いますが、いま政治空白というのはなぜ起こるのか。それは与党の足下がガタガタしているからですよ。残念ながら私どもは先の選挙で敗北をしました。衆議院は 100 議席ちょっとしかありません。あなたのところは 300 議席以上ある。あなたのところがきちっとまとまっていれば政治空白なんか生じないで、こういうところをわたっていけるはずなんです。要するにあなたが党内をまとめる人徳もない。力量もない。それが政治空白を生んでいる原因ではないかと私は思っておりますよ。だから、おやめなさいと、こう言った。そしてあなたがおやめになれば党派を超えて新しい日本のために団結していく道なんかはいくらだってできるんです。この認識があなたと私の大きな違いだと思います。

原発について申しあげたいことはたくさんあります。いま、総理のお問い合わせに私もお答えしましょう。私どもも原発政策を進めてまいりました。過去のオイルショック等々を見てエネルギー小国の日本から見れば、これは必然の選択であったと私は思っております。そして、これからも原子力エネルギーを止めてしまうということはできないと思います。やっぱり欠点、あるいはどこに問題点があったのか、徹底的に検証して、私は進めていく

必要があると思います。これは内閣だけではなく、国会でも徹底的に検証していかなければいけないと思います。しかし、少なくとも当面この原始力を進める、いま電力も非常にひっ迫しますから、それは自然エネルギー、あるいは再生可能エネルギーこういうものに工夫しなければならぬのは私も当然のことだと思います。

ただ、浜岡に関して申し上げれば、浜岡、あなたは要請をされた。法的な権限も何もないところでなされた。そうするとあなたの責任が法的に何かということとははっきりしない中で行われている。このことはよく意識してああいう要請をなされたけれども要請をされた国の責任というものをあなたはしっかりお考えにならなければいけないと思います。そして今回の原子力事故で申し上げれば、私先ほどあなたは4つの信頼を失ったと申し上げましたけれども、それは実は三つの大罪があるからだと思います。ひとつはこの震災、特に原発対応、随分不手際があったと思いますよ。それから二番目はいろいろな震災対応で被災者、そのことがあなたの目に入っていたのかどうかとおもいますよ。それから三番目は、あなたは子供手当の増額分それからあるいは政治主導法案を取り下げられた。国民との約束。マニフェスト。このことを撤回してしまわれたわけですね。そのことの責任をどうするのか。こういう三つの問題があります。それで、最初の原発等の初期対応について申し上げれば、まあ、この間からの注水したとかなんとか言うのの説明のくるくるくる変わることは、あれはいったい何だったんですか。斑目院長なんかは、「私はいったい何だったんでしょう」ということまでおっしゃったわけですね。なぜこういうことが起こるのか。これはですね原子力災害の特別措置法、平成11年にできたわけですが、あれによれば緊急事態を宣言すれば総理大臣が本部長になって責任を負われる。あなたはその責任を負っているわけです。しかし本来あなたのやるべきことは総合調整なんですね。そして、地域地域の本部を作ってそこに権限を委譲して地域でガンガン対策を進めさせる。それから原子力災害合同対策協議会というのを作って、そこに地域の自治体の方々も集めあるいは法医研等々の専門家も集める。こういう形で要するに専門家の知恵もきちっと入るように進めていくという体系になっている。そしてそういうもので原子力総合防災訓練というのも今まで行われてきたわけです。あなたはそれにきちっと、法に基づいて進めるべきだと思いますよ。あなたのなさっていることはこういう方の仕組みというものをほとんど無視して、対策本部は作ったけれども結局ご自分の側近で官邸の中で決めて行かれる。そしてこまかな、あそこから浮かび上がってくることも、細かな技術的なことにこだわり過ぎて、そして気に食わないことがあると機嫌悪く怒鳴り散らすものだから、どなたからも適格な情報が入っていかない。こういうことが私はこの原発の対応に致命的なマイナスになっていると思います。これを担当する官僚機構ともきちっとした人間関係が作れていない。あるいは東電とは、それは緊張関係も必要でしょう、しかし東電との信頼関係は全くなくなっていますね。だからあなたのこの対応が進んで行かない。あなたのもとでは私は不可能だと思います。

樽床委員長      菅直人内閣総理大臣

菅総理            私はこの原子力事故のことについて、平成 11 年に生まれた新しい法律制度、まさに原子力災害がその法律によって初めて、緊急事態という宣言をいたしまして、その日から私が、この東電を含む電力事業に対して指示をするという立場になりました。しかし当然のことでありますけれども、最初の段階から、東電の責任ある人にも来てもらい、そして原子力安全保安院の責任者にも来てもらい、そして原子力安全委員会の委員長をはじめそういう方にも来てもらい、官邸の中で来た情報を分析をして、そういう助言をいただいた中で本部長として判断しなければいけないということについてはきちんと判断をしてきたわけでありまして、なにかいろいろ谷垣さんも何かの本を読まれたところの受売りかもしれませんが、けして私はそういったことを思いつきや自分だけの考え方で処理することがいかに危険かということはだれよりも私は知っているつもりであります。そこで私から逆にもうしあげたいとおもいます。私は今最初の中でいろいろお話がありましたが、今年の 6 月に私が総理に就任した最初の国会だったと思いますが、それまでの 20 年間においても日本は残念ながら経済の低迷や財政の悪化や 19' 29" そして自殺の高止まりといった低迷状態にあると、そういう危機にある中でそれをいかに解決していくかということを取り組んで行きたいということを申し上げました。そして今回 3 月 11 日に大震災が発生した中で危機の中の危機という位置づけで、この大震災を復旧・復興していく中から最初の危機をも含めて超えていくという大きな目標を持たなければならないと考えております。そのなかで 3 月 11 日以降も社会保障と税の一体改革について与謝野担当大臣を中心に議論を進めてまいりました。今月の末までには社会保障と税の一体改革についての政府としての考え方をまとめて提示をいたします。谷垣総裁は以前、民主党としてあるいは菅内閣としてきちんとした対案を出してもらわなければ議論ができないと、確かおっしゃいましたよね。いよいよそのきちんとした案を今月中に出します。このことはもちろん震災対策や原子力事故の収束は大変重要でありますけれども、同時に中長期的な日本の課題を解決する上では避けて通ることができない課題であります。どうでしょうか谷垣さん、そうした社会保障と税の一体改革についての私どもの政府案を出せば、お約束どおりきちんと協議にのっていただけるかどうか、国民の皆さんの前でお答えをいただきたいと思えます。

樽床委員長      谷垣禎一自民党総裁

谷垣総裁            いろいろおっしゃいましたんでね。最後のところから申し上げます。私どもはこの社会保障と消費税の問題については、すでに去年の参議院選挙のときに公約にまとめて、ルビコンを渡っております。どうぞあなた方も渡っておいでになって、そのときはそのときで一緒に議論しようじゃありませんか。早くわたってください。早くわたっ

てください。そして、ほかのことについて、今度は申し上げます。私はやっぱり、あなたのやっておられることは、政治主導ということのはき違えであって、要するに法の体系や何かには則っていないことが多すぎるんですよ。だから、権限と責任の体系もはっきりしないということが、先ほど申し上げた、あの原子力の特別措置法の内容にしましてもですね、現地の対策本部を非常に重視する法の建前になっているんですね。だけれども、この間の質疑の中では、池田副大臣が現地本部長になっておられるという。それは実際上、お勤めになれない状況にある。そのことも隠蔽していた。つまり、ここはあなたが法の体系を無視していたという何よりもの証拠だということを私は申し上げなければならないと思います。そして、海江田さんはやっぱりそのことを大変苦慮されて、何とかしなきゃならないと思ったけれども、それを押しとどめられたのはあなただったんじゃないかという説もある。それから先ほど、何かをお読みになってと、私があたかも週刊誌でも読んで言ったやに仰いましたけれども、私は、これはいろいろな方からの聞き取りでございます。私どもの調査でございます。そういう中で、先ほど申し上げたようなことが出てきたということをお願いしなきゃならない。そこで、私が申し上げたいのは、結局のところですね、菅さんはやっぱり政治主導っていう中で、本当に全体の体系、原子力処理の体系をキチッと踏まえておられるわけではなくて、昔、わが党の竹下総理がですね、汗は進んでかきましよう、手柄は人に譲りましよう、というのをいつも言っておられた。あなたの場合はその逆だと思います。手柄は自分がかきましよう、汗は他人にかかせましよう。私はこう言うふうにあなたの言動を感じております。そこでもう1つ申し上げたいことは、今、社会保障とその財源の問題言いましたけれども、その前にやっぱり私はどうしても、震災対応をどうしていくかということはやっぱりこの党首討論で議論しておかなきゃいけないと思います。そこでですね、震災から80日間経ったわけですね。そこで進んだのは対策会議や、あるいはいろんな本部や会議の乱立だけですよ。本部や会議の権限や責任というのはあいまいなまま、実際の対策はなかなか進まないというのが今までの現実じゃないでしょうか。私はね、具体的な例を挙げて申し上げたいと思います。まず、被災者の生活支援の支援策というのは大変遅れてますよ。生活再建の支援が。例えば10万人以上が避難所生活されているわけですね。仮設住宅は5月末で2万7200戸ですよ。3万戸の目標をまだ未達成。しかし、東北地方はもう梅雨に入ろうとしている。やっぱり遅いと言わざるを得ません。それから生活再建支援交付金、これは前回は300万円届けるということになっておりますが、第1次補正予算は100万円で積算してあるわけですね。そして、各自治体への入金率は、まだ2割弱ですよ。ですから、自治体はそれぞれ復旧ニーズを把握しているでしょうが、これではなかなか自治体がどうやっていくか、なかなか動かないですよ。そして、元の土地に家を建てたいという被災者の切なる願いも阻んでいるようになっている。これは早くやらなきゃいかんですよ。それから、二重ローン対策ですね。これやっぱり今まで借金もしていた、と。しかし、その事業用資金なんか借りて借金しているけど、事業用の資産は全部壊れてしまった。そうしてまた借りなきゃいかん。こういう問題

にどうしていくか。わが党は案をまとめましたけど、遅れてますね、政府の対策は。それから原子力損害賠償ようやく2次のあれが出たようではありますが、やっぱりこの復興、復旧ということを考えると、いろいろバラ色の将来像を描くのもいいですけども、被災地の現実から見れば、自分の生活資産も失われた、職場も失われた、そういう中で今日どうしてやっていく、明日どうしてやっていく。やっぱり前払い金、仮払金でも早く届くことが必要だ。で、やっぱりですね、この原子力損害賠償法、これは1事業所当たり1200億円までですけど、早くこれも予算化してキチッとやらなきゃいかんと私は思いますよ。それから津波で浸水した住宅や事業所。これは今後の新たな都市計画ができあがるまで、建築をこれは一律に規制しているわけですね。で、これは結局今後の方針が出てこない、一律に規制したままなかなか動かない。だから国の方針決定のスピードがここは非常に大事なことだと思いますね。それから、普通の復旧がなかなか進んでいないんですよ。がれき処理。まだ15%進捗率ですね。それで全額国費だと仙谷さんがおっしゃったけれども、9割は補助金になっているけど、1割は交付税だ、と。これは基準財政需要で積み上げていうんでしょうけど、各自治体は、基金を取り崩さなきゃならないんだろうか、とこれ心配しているんですよ。それからJR7線、あるいは三セク鉄道の復旧。ほとんど予算化されていない。それから青森からずっと岩手、宮城、福島、茨城、千葉。数百キロにおよぶ堤防は半壊、全壊ですよ。そうしてこの予算は1次補正ではほとんど予算化されていない。台風シーズンを迎えて、土嚢でしのげと言っているような状況なんですよ。それから漁港。これは被害総額6440億円のうち1次補正ではわずか250億。それから学校ですね、あるいは病院。全壊したものについては、一部が壊れたものについては予算が付いているけど、全壊したものについては、予算が付いていないからできないという現象がありますね。さらに言うと日本経済全体も早急な対策が必要です。中小企業の資金繰り支援。これは1次補正では、本年度上半期の対応分のみですよ。5100億円ですね。これもっと積まなきゃやっぱりダメだと思いますよ。それからサプライチェーン。これはずいぶん東北なんか製造業のサプライチェーンがちゃんとたくさんあった。こういうものが壊れた。それから電力需給の逼迫もある。こういったものについて、我々は1次補正で必要だと言っておりましたけれども、計上されていないわけですね。こういうのを一体どうなさるんですか。

樽床委員長          菅直人内閣総理大臣

菅総理                  谷垣総裁から大変前向きな建設的なご意見をいただいたと思っております。今おっしゃったようなことについて、いよいよこれから復興に向かって具体化していかなければならない課題だと考えております。まず5月2日に御党の賛成もいただきまして、4兆円余りの第1次補正を成立させていただきまして、まずは復旧にかかるがれきとか、あるいは仮設住宅などにその費用を充てているところであります。しかし、今お話が

ありました生活支援の費用、あるいは本格的な漁港の再生、そういったものについては、いよいよ本格的な復興計画を立てて、それに予算を振り向けなければなりません。実はですね、谷垣総裁。今日ですね、昼の時間に、ある与野党のみなさんが私の所においでになりました。それは国難に対処するために行動する民主・自民の中堅若手議員連合の方がこられまして、今お話のあったようなことを含めてですね、この国会を延長してしっかりと議論をすべきだという、こういうご提言をいただきました。私は今、谷垣総裁がおっしゃったことも含めてですね、しっかりとこれからの国会の中で審議ができるように、場合によっては、この大震災の時でありますから、通年国会ということも含めてですね、国会の延長を考えたいと思うんです。しかし最終的に国会の延長は国会で決めていただかなければなりません。どうでしょうか。自民党の総裁としてそうした今谷垣総裁ご本人が言われたようなことも含めて、しっかりと議論をして結論を出す。3党の政審会長、政調会長のみなさんの合意もありますので、そういった合意の実現に向けて、この延長された国会の中でしっかりと結論を出していくという、そういう姿勢を取っていただければと私からお願い申し上げたいと思いますが、いかがでしょうか。

樽床委員長          谷垣自民党総裁

谷垣総裁          まあ、今まではですね、6月22日でさっと会期を閉じるような情報を流しておきながら、苦しくなってくると通年国会も視野に入れてなんてね、まことに真のない話だと私は思います。そして私は会期のことを申し上げたのではなくて、先ほど申し上げたようなことに対して2次補正をもっと早くやれ。1次補正があがった段階からそれを議論すべきだと私どもは言ってきたんです。それはどうなんですか。財務省にも2次補正を出せと指示なさったんですか。

樽床委員長          菅直人内閣総理大臣

菅総理          復興の特別委員会を設けていただきまして、現在、基本法の質疑もいただいております。そして、その中でも今、谷垣総裁からのお話のような意見も含めて、しっかりと議論の中でお聞きをいたしております。現在は5月の2日に補正予算、第1次補正予算ができておりますので、これから第2次補正を組む上では、まず大枠の考え方を議論をしていかなければなりませんので、その3党合意の中にもあります、あるいは自由民主党の案の中にもあります、例えば復興国債というものについてどう考えるのか。こういったことをですね、議論していかなければならないことは谷垣総裁もよくよくご存じだと思うんですよ。従来の一一般の建設国債や赤字国債のように60年償還でその財源を作るのか。それとも復興債という形で自由民主党が提案されているように、償還も別の手当てをしていくのか、極めてこれは重要なことであります。先ほど格付けのことも言われました。



民間の格付け会社が何かを言うからと言って私がそれにコメントすることは差し控えますけれども、少なくとも1次補正について国債発行をしないでやったということも、そうした国債マーケットを、つまりそういったものもきちんと視野に入れて考えて提案したわけでありまして、第2次補正は大きな規模になることが当然予想されますので、何に使うかということと同時に、その財源をどういう形で調達し、どういう形で、場合によれば償還していくのか、どうか谷垣総裁、こういう議論も是非、特別委員会あるいは与野党で3党合意の中にも入ってますので協議をしようということをして是非お願い申し上げたいですけど、いかかでしょうか。

樽床委員長          谷垣禎一自民党総裁。お静かにお願いします。お静かにお願いします。

谷垣総裁          今の菅さんのお話では、この第2次補正等々の取り組みは私は極めて遅いと思います。そして財源のお話、いろいろ復興債との設計についてのお話もありました。私はそこは菅さんではおできにならないと思っています。要するにマニフェスト等々をどうやっていくか。ああいうようなことについてもキチッと整理できていない。私は菅さんの下ではこれはできないと思います。そして先ほど申し上げたように、先ほど申し上げたように信を失っている菅さん。結局何でいろんな問題が進まないのかというと、300議席を超えている与党を十分掌握できていないあなたの不徳と力量のなさがこの空白を呼んでいる原因なんです。だから私はこの復興のために、新たな一步を我々がやるためには、まず指導者を代える必要があると思います。そして菅さん、あなたがお辞めになれば、いくらでも党派が超えて集まって新しい体制をつくる工夫はいくらでもできるんです。菅さん、与党の党首として最後にそれが自分がそれを果たすという矜持はありますか。そして私はもし菅さんがそれをおやりにならないのであれば、野党の党首としてキチッと新しい道を開くために徹底的に戦う。このことを申し上げて終わらせていただきます。

樽床委員長          菅直人内閣総理大臣

菅総理          谷垣総裁から私がまあ与党民主党の衆議院の全体を十分に束ね切れていないということのご指摘がありました。ご指摘を頂いていることは私も重々承知を致しております。しかし、政策的に申し上げますと、例えば小沢元代表は、今、自由民主党が最も厳しく批判をしている4Kについて基本的にはそれをそのままやるべきだということをおっしゃっておりまして、私たちとしては、これはある程度、マニフェストの見直しが必要ではないかということで党内の議論を進めているところであります。そういった意味で、野党であるから、いろいろな戦術戦略をしかれることはそれは十分理解はできますけれども、少なくとも国民の皆さんには政策的な軸がどこにあるのか、軸がなくて、ただそういうものを政局にだけ使おうとしているのか、そこを私は国民皆さんは見ておられる。やはりこ

こは何とか与野党の合意を得て、この大震災の復旧復興、そして原子力のこの事故の収束を国会が一丸となって取り組むということを是非、勇気ある野党の党首として谷垣さんに要請をして私からの言とさせていただきます。

樽床委員長      谷垣自民党総裁

谷垣総裁      党内のことは党内で片づけてください。野党は野党としての行動を取ります。

樽床委員長      これにて谷垣君の質問は終了いたしました。